



発行者
諫早市立真城中学校
校長 山内 昇

学校教育目標

- 広い心と公正な判断力のある、情操豊かな生徒を育成する。（徳育）
- 自ら求めて学び、豊かな知性を備え、創造力に富む生徒を育成する。（知育）
- 健康でたくましく、忍耐力に富む生徒を育成する。（体育）

○ 平和学習講演会を実施しました。

15日（水）の午後、被爆体験を語り継ぐ『永遠の会』の本村さん、二田さんを講師にお迎えして、平和学習講演会を実施しました。8月9日に行いたいと考えていたのですが、猛暑の中、体育館で実施することができなかったもので、この時期になりました（8月9日は放送での集会を実施しました）。

被爆体験や学徒動員など、自分たちと同年代だった人たちの体験について、生徒たちに語りかけるように、お話をしていただきました。その後は、山口カズ子さんという、原爆で家族を亡くされ、34年後に様々な思いを込めて書かれた詩を、生徒全員で声を出して読むというアクティビティを行いました。声に出すことで、山口さんが詩に込めた思いを感じ取ることができたと思います。

今年で原爆投下後80年が過ぎました。被爆体験を語り継ぐ多くの方々の思いを受け継ぎ、生徒たちの世代が未来へと紡いでいってくれることを願っています。



上の写真は、本村さんと名刺交換をした際に、名刺に添えられていた折り鶴です。カラフルな包みを開けてみると、ハートの中心に鶴が一体化した折り紙が入っていました。『永遠の会』の方々が平和への願いを込めて折られたものだそうです。平和への願いが込められたこの折り鶴を、机の透明マットの一番よく見える場所に挟みました。

☆ 平和学習会の感想を紹介します。

3年 竹内 くん

自分は特に山口さんの詩の2年生がよんだ段落が印象に残りました。文章から、戦争への怒りや逃しみ、なぜ人を殺す戦争をするのか？と思っている山口さんの気持ちが少し分かったような気がしました。

3年生がよんだところは、被爆後の生々しい長崎の町の様子や、人々の姿を詩に書かれていました。原子爆弾が落とされて、34年も経ったときにこの詩を書かれていても、それだけ、その当時の様子を鮮明に覚えているのだなと思いました。4つ目の段落の「人は忘れやすく～くり返す」「だけど…」「このことだけは～どんなことがあっても…」のところは、人がどんなにいろいろなあやまちをくり返しても、原子爆弾、核兵器を絶対に使うな！という山口さんの強い意思を感じました。6年前の長崎平和祈念式典でこの詩がよまれたそうなので、ぜひ聞いてみたいです。

○ トイレ工事の進捗状況（体育館）



先日、お伝えした、トイレの洋式化工事の進捗状況です。写真は体育館の男子トイレです。大便器と仕切りが撤去され、配管工事もほぼ終了していました。今後は、新しい洋式便器を取り付け、タイル貼りと、新しい仕切り板とドアの設置です。ほぼ予定通りに進んでいるそうです。

また、工事の途中（昼休み）の写真を撮りながら驚いたのが、現場の整理整頓が行き届いており、作業中であるとは思えなかったことです。常に整理整頓されたこの現場を見ると、本当に丁寧に、心を込めて工事をされていることが伝わってきます。

この工事後は、今後、何十年も新しいトイレが多くの生徒たちに使われることになります。今の生徒の子どもたちが使うことになるかもしれません。胸を張って、新しいトイレを、次の世代に引き継げるように、大切に使わなければ！と強く感じています。これも「輝継」（**輝くトイレを未来に受け継ぐ**）だと思います。

真城中学校だより
光輝 KIZUNA 継

今回の「輝継」のタイトルは、1年1組の丸田さんの作品です。輝～継の文字がリボンで結ばれている可愛いデザインです。一見シンプルですが、とてもセンスがよいと感じました。

○ 昨日の給食（10月15日）



昨日（15日）は、**キムタクごはん、メンチカツ、つみれの吸い物、ゆずの香和え**、でした。

キムタクごはんは、めったにないメニューなので、毎回とても楽しみです。今回は、少

しキムチが多めに入っており具沢山でした。生徒たちも、ものすごい勢いで食べていました。それに加えて、メンチカツもボリューム満点で、吸い物、野菜と併せて、大満足のメニューでした。キムタクごはんは、給食ならではのメニューで、他市・他県でも出されているところが多いようです。次回は来年になるかもしれません